

聖泉大学 地域連携交流センター

平成 29 年度 活動報告書 vol.4

平成 30 年度 教員紹介（研究者一覧）

2018

つながり



ごあいさつ



聖泉大学 理事長・学長
小山 敦代

平成 30 年度から、筒井裕子前理事長・学長の後任として、理事長・学長に就任の小山でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

平素は、本学の教育・研究・社会貢献活動に対し、地域（特に滋賀）の皆様方には、多大なるご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

近年、地域と大学が連携して地域活動に取り組むことが増えてまいりました。この動きは、大学と地域の両者にそれぞれの契機が存在しますが、大学においては、平成 18 年に教育基本法が改正され、社会に研究成果や人材を役立てる「社会貢献」も大学の使命であることが明文化されたことから、より直接的な社会・地域貢献の役割が求められる時代となってまいりました。

本学の教育理念は、「人間に対する理解を深め、広く社会と地域に貢献できる人材を育成する」であり、人間学部・看護学部・大学院看護学研究科・別科助産専攻共に、平素から「人間理解」と「社会・地域貢献」を主眼とした教育・研究・社会貢献活動を行っておりましたが、平成 25 年に地域連携交流センターを開設してから世の流れの中で、その活動が具現化してまいりました。

本誌「つながり」は、まだ Vol.4 ですが、その多様な活動がイキイキと伝わってまいります。まさに、滋賀の大学として近江商人の「三方よし」の精神で、「学生にとってよし」「大学にとってよし」「地域にとってよし」をモットーとして、学生を中心に、地域で育てられ、地域に信頼・愛され、地域に必要とされる聖泉大学として充実・発展・改革に向け、地域の方々のご支援・ご協力を得て教職員が一丸となり取り組んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



聖泉大学 地域連携交流センター長
間 文彦

聖泉大学地域連携交流センターは、本学の建学の精神と教育理念である「人間に対する理解を深め、広く社会と地域に貢献できる人材の育成」を実現するため、そして地域連携および産学連携の窓口として、地域社会の発展に寄与することを目的に設置され、5 年目を迎えました。

平成 29 年度は、彦根市と締結した包括連携協定の項目を中心に、様々な連携事業に取り組んで参りました。協定項目のひとつに「安心・安全なまちづくり」の推進があり、平成 29 年 11 月 18 日に「聖泉大学防災サポーターチーム」の結成式を実施し、今後は、学生・教職員とも様々な防災活動を推進して参ります。

平成 30 年 5 月には、滋賀県と包括連携協定を締結し、聖泉大学と地域の交流をより一層促進し、地域社会の発展に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

目次

ごあいさつ	2
地域連携交流センターの概要	4
彦根市との連携	5
自治体との連携（米原市・愛荘町）	8
連携事業	8
教員の研究と地域交流	10
大学教育と地域交流	11
地域課題解決の取組（聖泉版・近江楽座）	12
平成 29 年度 健康づくりリーダー養成講座（初級編・中級編）	14
平成 29 年度 公開講座	16
学生の地域交流活動	18
大学附属施設の機能・概要	20
学部附属施設の機能・概要	21
教員紹介（研究者一覧）	22
地域連携交流センター規程	30
平成 30 年度事業計画	31



地域連携交流センターの概要

センターの目的

聖泉大学の地域連携及び産学官連携の総合窓口として、地域住民、NPO、行政、医療機関、企業等との連携を深め、本学が有する人的資源及び教育研究成果を広く地域に還元するとともに、地域社会の発展を目指しています。

連携する地域・団体

連携協力協定（締結先）

彦根市、米原市、愛荘町、彦根商工会議所、稲枝商工会
大学を活かした地域活性化のための協定（6者協定）
聖泉大学・滋賀大学・滋賀県立大学・平和堂・彦根商工会議所・彦根市

連携地域・団体

彦根市社会福祉協議会、稲枝地区社会福祉協議会福祉活動推進委員会、近江地域学会、小江戸ひこね町屋活用コンソーシアム、豊郷町など

平成29年度の年間活動内容

	公開講座	地域連携	会議・調査
4月	●健康づくりリーダー養成講座（中級） 「心と身体のリラクゼーション」		定例センター会議（毎月開催）
5月	○公開講座「パートナーと過ごすマタニティライフと出産・育児」 ●健康づくりリーダー養成講座（中級） 「やってみよう！聖泉オリジナル体操」		
6月	○公開講座「子どもの健やかな成長のために」 ●健康づくりリーダー養成講座（中級） 「やってみよう！丈夫な足腰をつくる簡単エクササイズ」 ●健康づくりリーダー養成講座（中級） 「アクティブ・シニアに必要な栄養と食事について」		
7月			彦根市との連携推進会議
8月	○公開講座「発達障がい児との関わり」	とっとまつり参加（豊郷町）	
9月	○公開講座「老いてこそ輝く」 ●健康づくりリーダー養成講座（初級）「体力測定と健康相談」		
10月	●健康づくりリーダー養成講座（初級） 「ノルディックウォーキング体験」	彦根城築城410年祭（南部イベント参画）	
11月	●健康づくりリーダー養成講座（初級）「運動と心の健康」	防災・福祉イベント（彦根市と連携）	
12月		学生の地域活動から防災×福祉を考える（彦根市と連携）	
1月			
2月			
3月			滋賀県との協議

センターの業務・機能

地域連携・産学官連携・調査研究

地域住民、NPO団体、行政機関、医療機関、産業界、大学・地域コンソーシアム等に係る人的交流、受託研究、共同研究を進めています。また、地域課題の把握、課題解決のために定期的な協議を行っています。

公開講座・地域連携講座等の実施や生涯学習の普及・拡大

地域の課題に対応した「公開講座」や高齢者の学び直し講座として「健康づくりリーダー養成講座」を実施しています。

学生の地域連携活動の支援

学生の地域貢献活動の支援や「学生地域連携交流委員」の活動協力等、学生が積極的に地域連携・貢献活動が出来るようサポートをしています。

彦根市との連携

彦根市と聖泉大学の包括連携協定に基づく連携推進会議

日時:平成29年7月20日(木) 15:00～17:00
場所:聖泉大学
内容:平成28年度末に包括連携協定を締結し、第1回目の連携推進会議を開催いたしました。彦根市からは、企画課、危機管理室、消防本部、医療福祉推進課、生涯学習課よりお越しいただきました。会議は筒井学長の挨拶の後、間 地域連携交流センター長から協定項目の現状や今後の予定等について説明をした後、それぞれの内容について意見交換をいたしました。次年度以降も年1回実施予定です。



彦根市防災訓練

彦根市防災訓練・避難場所設営訓練に近江楽座&学生地域連携交流委員が参加しました。
まずは、学内で事前説明会・応急手当ての練習をした上で、訓練当日を迎えました。当日の役割は連絡広報班、救護班、間仕切り班に分かれて地域住民の方と共に、訓練に取り組みました。
訓練後は各班から取組内容・感想を発表し全員で共有しました。また、終了後には別会場の炊き出し訓練班から、おにぎりが届き、全員で頂きました。学生にとっては貴重な経験になり、次年度以降も継続して参加していきたいと思っています。



＜学生の声＞
私たちは、彦根市が行っている防災訓練に参加して、実際に避難所の設置を体験しました。段ボールを使って間仕切りの作成を体験して、避難所での生活がしやすいように工夫されていることを学びました。また、防災サポーターチームを結成し、結成式に参加したことでチームの一員としての自覚を持つことができ、防災への意識が高まりました。学生の立場から防災についての情報を学び活動をしていきたいです。
(看護学部 吹矢一恵)

国宝彦根城築城410年祭中南部イベントに参画

聖泉大学は、国宝・彦根城築城410年祭推進委員会(中南部イベント)のメンバーとして、4月より彦根市、彦根商工会議所、稲枝商工会等と準備を進めてきました。
中南部イベント「古代歴史ロマンと食と火の祭典」には、本学的女子サッカー部と学生地域連携交流委員が運営スタッフとして参加し、イベントを盛り上げました。
ウォークラリーの受付やアテンドとして、市職員さんと共に働きました。ステージでは、本学の軽音楽部のライブ、フィナーレは花火と盛り沢山の内容でした。また人間学部の中期インターンシップで参加している学生は、朝から夜まで市職員さんと共に運営全般に携わりました。



彦根市と連携し防災・福祉イベントを実施

日時:平成29年11月19日(日)
場所:聖泉大学

聖泉大学と彦根市は、包括連携協定の連携・協力事項として、「安心・安全なまちづくりに関する事業」があり、具体的な連携活動として、学生の防災サポーターを結成し、彦根市や関係団体と連携し、防災・福祉イベントを実施しました。

認知症サポーター養成講座

彦根市医療福祉推進課、HOTサポートセンターと連携し、認知症サポーター養成講座を実施いたしました。認知症の症状や対応の仕方について学び、修了者にはオレンジリングをお渡ししました。

<感想>

- ・大変わかりやすく受けることが出来ました。これからの生活の参考にしたい
- ・認知症の理解につながりました。
- ・民生委員をしており、色々と参考にしたい。



防災講座

本学の教員、防災サポーター等が協力し、応急手当の講座を行いました。

<感想>

- ・実際に体験学習ができ、今後出来れば参考にしたいです。
- ・実習がわかりやすかった。
- ・いつどこでおこるか分からないので、いざという時に少しでも役立てるかと思いました。



炊き出し訓練

彦根市社会福祉協議会と連携し、炊き出し訓練を実施いたしました。防災・福祉講座を受講した方々に、豚汁を振る舞いました。防災サポーター結成式に参加した「ひこにゃん」にも振る舞いました。

<感想>

- ・万が一の時のため、勉強になりました。
- ・良い体験ができた。



防災サポーターチーム結成式

本学の学生、教職員で防災サポーターチームを結成しました。結成式には彦根市長、ひこにゃんも参加してくださいました。結成式の後には、避難所でトイレに行くのが怖くて泣いている女の子への対応について、寸劇を通して発表しました。

<感想>

- ・近くに防災サポーターチームが出来たことは、心強く思います。



防災展示

本学の学園祭の2日間にあわせて、彦根市危機管理室、消防本部、彦根市社会福祉協議会、日本防災士会滋賀県支部のご協力を頂き、

防災展示、防災クイズを実施しました。

当日は、防災士の卒業生も一緒に、防災クイズや子どもたちへ紙芝居を通して防災意識を持ってもらえるよう、分かりやすい説明を心がけました。



<人間学部卒業生 横山さんの感想>

学生、教員、地域の人材など沢山の人が参加され、また、彦根市長や「ひこにゃん」など自治体の協力を得られたことも良かったと思います。また、防災士としても、学生と大学が協力して防災に取り組もうという所が見え、今後も協力していきたいと思いました。



<連携先の感想>

- ・認知症サポーター養成講座、防災サポーター結成式では市民の方への防災意識の向上や認知症への理解が深まる良い機会になったと思います。
- ・防災・福祉だけのテーマで集客することは難しい。また、関心の低い人知ってもらおう意味でも、学園祭と合同の方が幅広い層に参加してもらえる。(知ってもらえる)
- ・防災について広く周知できる機会となりました。また、防災サポーターの意識が高く、今後の活躍の期待できると感じられました。
- ・大学として地域連携の推進を図っていこうという思いを具体的な形にいただき心強いです。

<次年度に向けて>

学園祭と同時開催したことで、子どもから高齢者まで様々な方に、防災について、また聖泉大学が避難場所であることを知って頂くことが出来たのではないかと思います。まだまだ課題はありますが、継続し取り組んでいきたいと思っています。



第2回 連携講座

日時:平成29年12月10日(日) 13:10 ~ 15:45

場所:聖泉大学 455教室

内容:

- 基調講演 「学生の地域活動から『防災×福祉』を考える
講師 岡野英一 氏(龍谷大学社会学部特任教授)

- パネルディスカッション

コーディネーター 岡野英一 氏
(龍谷大学社会学部特任教授)

パネリスト

谷澤幸治 氏(彦根市消防本部)

森恵生 氏(彦根市社会福祉協議会)

辰巳三喜雄 氏(稲枝地区まちづくり協議会)

間 文彦(聖泉大学地域連携交流センター長・看護学部教授)

磯邊厚子(聖泉大学看護学部准教授)

基調講演として、岡野教授より、京都府南部や九州北部豪雨等の災害を事例に、災害と福祉の接点、行政・地域・大学の協働から生まれる力等について分かりやすく説明を頂き、様々な課題の中、本日のコミュニティをどのように考え、どう再生していくのか、大学や学生、行政、地域、企業等はどのような可能性があるかについて講演を頂きました。パネルディスカッションでは、講演を受けて、様々な立場のパネリストが意見交換を行い、それぞれの思いを理解するとともに、今後も連携・協働していくことの大切さを実感しました。

<基調講演の感想>

- ・大学、各組織、団体、連携の大切さを学びました。
- ・個人を守ることと社会を守ることが難しい時代だと思いました。

- ・まず、小さい輪からでも地域づくりをし、皆で広げていけるようにしたいと思う。
- ・それぞれの立場の方の思いを知ることができ良かったです。共助の大切さや学生が地域を知り、交流していくことの大切さがわかりました。



自治体との連携（米原市・愛荘町）

■ 米原市と連携し、高校生の主権者教育を実施しました

人間学部富川拓准教授は、米原市と連携し、伊吹高等学校・米原高等学校で生徒を対象とした主権者教育出前授業を実施しています。

この出前授業は学生が米原市職員の方とチームを組んで企画したものです。

高校生の皆さんの政治や選挙への関心を高めるため、選挙に関する「クイズ」、企画サイドが架空の候補者を演じる「模擬投票」、自らの投票行動を振り返る「グループワーク」を実施しました。



■ 愛荘町と連携し、愛荘町のオリジナル健康体操を開発しています

平成29年度は、愛荘町のあいしょう版『スポーツ×健康づくり×地域づくり』推進事業の健康体操プログラム開発事業の委託を受けて、看護学部 安孫子尚子講師と人間学部 多胡陽介講師がプログラムの開発に着手しました。開発に至るまでには、愛荘町の健康体操の開発の目的の共通認識と、開発後の普及啓発を担う健康推進員、ヘルスサポーターに行われている研修参加による健康づくりへの取り組み状況の確認を行いました。

また、研修会には聖泉大学人間学部と看護学部の学生も参加し、交流を行い住民の思いを知る機会となりました。体操プログラムの構成は、ストレッチングを中心とした準備体操、ストレッチングと筋力エクササイズの主運動、リズム体操です。

平成30年度は、完成版を作成する予定となっています。



連携事業

■ 彦根市少年リーダー養成講座

本学では、平成29年度彦根市少年リーダー養成事業の委託を受け、人間学部炭谷将史准教授が、彦根市少年リーダー養成講座（初級編）のプログラムを開発し、全4回の講座の企画・運営をいたしました。

第1回オリエンテーション、交流会

第2回SUP体験（琵琶湖岸）

第3回宿泊研修（妹背の里）

第4回保護者研修会、修了式（聖泉大学）



この講座は大学生スタッフがサポートし、小学生と楽しく交流しながらも、お兄さんお姉さんとして、様々なアドバイスをしてくれました。（本学の人間学部の学生や他大学の学生がスタッフとして参加しました）



■ 環びわ湖大学地域コンソーシアム

人間学部 脇本忍准教授が彦根市と連携し6月から「彦根映画観光ツーリズムの提案と実践」に取り組んでいます。11月25日には環びわ湖・大学地域コンソーシアム交流フェスタ2017活動報告会が、甲賀市かふか生涯学習館で開催され、中間発表を行いました。10大学14グループのプレゼンテーションの後、会場フロアでのパネル発表と質疑応答。さらに、地域自治振興会と学生とのまちづくり交流会が実施され、地域資源、農業・環境、健康・学習、地域活性化、地域発信についてディスカッションを行いました。



■ 稲枝地区社会福祉協議会との連携活動

本学では、昨年度より稲枝地区社協福祉推進会議に参加し、地域の実情の把握や大学が出来ることについて共に考えています。今年度は、「あいさつ運動」の標語募集があり、本学からも学生、教職員が応募しました。稲枝地域で630名、914点の応募があり、住民福祉推進委員会で選考された結果、本学人間学部の西川さんが入選し、8月5日にみずほ文化センターで開催された表彰式に参加しました。

表彰された標語は、「あいさつで 互いの心 温まる」です。

また、「稲枝ルネサンス」が開催され、地域住民の方と共に、稲枝の未来についてのワークショップに参加しました。



教員の研究と地域交流



人間学部 教授
炭谷将史

子どもの遊びと発達について ～遊び環境をデザインする～

私の研究テーマは子どもの遊びと発達です。遊ぶこと、身体を動かすことは子どもの発達にとって非常に重要なことです。しかし、現代社会では身体を動かして遊ぶための環境が不足しており、その影響は子どもの発達にすでに現れています。私はこのような状況を変えるため、遊び環境をさまざまな形でデザインすることに特に力を入れています。

研究成果を活かす実践活動は日本全国で行っています。特に湖東エリアで行なっている活動は、彦根市立稲枝東幼稚園と連携した運動遊び活動（4歳児を対象とした活動および親子のふれあいをねらいとした活動を毎月1回程度）と聖泉大学の体育館を拠点とした児童クラブ（週1回）です。また、彦根市教育委員会からの委託を受けて小学生を対象とした「少年リーダー育成」、高校生・大学生以上を対象とした「青年リーダー育成」を行っています。これらの活動はすべて「人間は動くことを通じて環境と出会っている」という理論的な背景に根ざしています。学生たちとともに子どもたちの心と身体の育ちを考えることは私にとって楽しい。今後もこのつながりの中で学んでいくことを希望しています。

地域活性につながる高齢者と 看護学生の交流

わが国の2016年の高齢者（65歳以上）は3,459万人で、総人口の27%を占めています。昨今、高齢者のニーズが多様化する中で「与えられる生きがいづくり」ではなく、「自らの意志で生きたい」と考える高齢者が増えています。今回、参加させて頂いた高齢者サロンでは、認知症予防教室やボランティア活動など積極的な活動をされており、本学看護学部の学生たちは、介護予防をはじめ、地域の歴史や文化、生活の知恵など、高齢者の方々から沢山のことを学ばせていただきました。

学生にとって、学生時代から地域の高齢者の方々と交流することで、地域で共に暮らすパートナーとして、地域の医療福祉や安心な町づくりへの関心が深まります。また、看護学生として将来看護職者として高齢者へ良好なケアを提供できる看護人材の育成につながり、学際的な活動として大変意義があります。高齢者の方々から「学生さんが来ると元気が出る」と言っていただき、相互に影響し合うことで、元気な地域づくり、地域活性に繋がるのではないかと思います。今後も本交流が継続していくことを願っています。

大学教育と地域交流

看護学部2回生

栗原佳子

私は、聖泉大学COCプログラムの近江楽座のプロジェクトで、「高齢者と看護学生の地域内交流」に参加し、「彦根市地域包括支援センターゆうじん」、「稲枝地区ボランティア連絡協議会」の2カ所の高齢者サロンに参加しました。きっかけは、授業の後、磯邊先生が高齢者の方と交流する機会があるので参加しませんか？という誘いでした。私は、コミュニケーションが苦手で、サークルに所属もしていなかったので、何かしてみたい、コミュニケーションがとれるようになりたいと思い参加しました。最初は緊張しましたが、その後、高齢者サロンの雰囲気慣れ、楽しみになりました。

彦根市地域包括支援センターゆうじんは、認知症予防を目的としたサロンで、職員やボランティアの方が高齢者をお助けしながら、楽習、数字盤、金亀体操、茶話会をされていました。稲枝地区ボランティア連絡協議会では、介護予防体操、おにぎり作りなど一緒にさせていただきました。どちらのサロンも和気あいあいとした雰囲気、何でも話せる環境で、スタッフや高齢者の方々がいつも温かく接して下さいました。

私はこれまで高齢者に対してマイナス面の印象を持っていましたが、様々な高齢者の方々に出会い、高齢者の方々のプラス面や強みに気づきました。私自身、話せるようになり、少し成長できたように思います。これからの看護の勉強に生かしていきます。



人間学部4回生

叶蕙静

2016年10月、私の日本での留学生活が始まりました。時間の流れが速いと感じている中、この一年は色々な場面で活躍できたのではないかと思います。

私のゼミでは、「彦根映画ツーリズム・観光マップ」を作るために、滋賀県の所々に行きフィールドワークをしながら、観光資源などの情報収集を行いました。また、映画「ちはやふる」を滋賀映画祭に上映するための前期宣伝として数々のイベントも行なっています。更に「トリガール」の宣伝のために、「空に飛べるはず」を用いて、「鳥ガール」という創作ダンスを作って、ひこにゃんと一緒に稲枝の幼稚園の子供たちに宣伝活動を行いました。

他にも琵琶湖に浮かぶ日本唯一湖上で人が暮らす島、沖島の西福寺で、地域活性化活動のため、ゼミの仲間と協力し、何回も沖島に行き活動しました。最後は落語家森乃福郎さんと提携しながら、第一回「沖島落語会」を無事実施することが出来ました。また今年も「沖島落語会」の開催が成功するように頑張りたいと思います。

この一年間では、地域連携に関する活動の中で、貴重な記憶をいっぱい作りました。日本語能力は日本に来る前と比べだいぶレベルアップしました。日本文化を深く体験してきたことは、その一年間の集大成になりました。これからも、日本をもっともっとよく知り、有意義な留学生生活を過ごしていきたいと思っています。



地域課題解決の取組（聖泉版・近江楽座）

本学では、文部科学省地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）を通じて、学生の地域貢献活動「聖泉版・近江楽座」を実施しています。平成29年度は7つのプロジェクトを実施しました。

講座名	チーム名
日本で唯一湖に人が暮らす島「沖島」の地域活性化 —幽霊伝説と笑いを活用したまちづくり—	脇本ゼミ
地域活性化への貢献	高齢者と看護学生の地域内交流
学童保育プロジェクト	新美ゼミ
心知よい生活プロジェクト ～心理検査を通して自分のことについて考える～	心理検査研究会
安全・安心のまちづくり・防災プロジェクト編	防災プロジェクト
地域活性化推進プロジェクト ～彦根の祭りを知って伝えよう～	地域盛り上げ隊
地域活性化・課題解決プロジェクト	キャリアアップ演習

日本で唯一湖に人が暮らす島「沖島」の地域活性化
—幽霊伝説と笑いを活用したまちづくり—

琵琶湖に浮かぶ日本で唯一、湖上で人が暮らす島、沖島の西福寺で幽霊の掛け軸「蓮如上人幽霊済度の図」が発見されました。幽霊は沖島に逃れた源氏の落ち武者の末裔である茶谷重右衛門の妻が出産直後に早世したため乳飲み子のことが心配で、幽霊となって重右衛門の枕元に現れた。この沖島幽霊伝説をもとに新作落語「沖島の幽霊」を創作し、沖島西福寺落語会を開催することで、沖島の観光活性化とアイランドツーリズムを提唱しました。



地域活性化への貢献

高齢化社会の時代、世代間交流が求められますが、高齢者と若者の交流は希薄です。看護学生が地域の高齢者の集いに参加し、高齢者と対話し、高齢者の生活課題や健康課題に気づくことで、地域の課題解決に関心が高まります。一方、高齢者にとっても若者との交流は、生きがいや人とのつながりを取り戻し、健康寿命の延長に繋がる可能性を生む。高齢者と看護学生の交流が地域の課題探索や地域活性化の創生に繋がる可能性は大きい。その一歩を踏み出すことが本プロジェクトの目的です。



学童保育プロジェクト

本プロジェクトのきっかけは、学童保育事業を新しく受託されたNPOのびっこクラブさまが本学に協力要請のためご来訪されたことでした。即時のお手伝いは難しかったものの、地域の児童福祉を充実させる一助になれるならと思い、ゼミで何らかのお手伝いをさせていただきたいと人間学部教員の新美は考えた。なお、民俗学の専門用語に「ハレ」（非日常性）と「ケ」（日常性）という概念があるが、新美はゼミ生たちには「ケ」の場を支えることのできる人材に育ってほしいと常日頃願っている。そのため、特別なイベントよりも普段の活動を細く長くお手伝いさせていただければという基本姿勢でスタートしました。



心知よい生活プロジェクト
～心理検査を通して自分の心について考える～

本プロジェクトの主たる目的は、地域の人々が自分のところを客観的に知り、自己の人生を振り返るのを支援することである。同時に学生たちにとっても、自分たちが学んできたケアの心理学において本質的に重要なことが何であるのかを学ぶたいへん貴重な機会になるのではないかと考えました。心理検査において重要なのは検査結果そのものではなく、「結果をいかにフィードバックするか」である。フィードバックにあたっての心構え、さらには「地域の人との関わり方」について、学生が実践的に学ぶことが副次的な目的です。



安全・安心のまちづくり 防災プロジェクト編

彦根市では安全安心な暮らしの確保として防災・防犯対策を推進しておられます。そこで私たちは防災サポーターを結成し、彦根市の防災訓練や火災予防啓発活動に参加し、防災についての理解を深めました。学園祭の一部として自治体や地域の方と連携し防災イベントを実施する等、防災への意識向上と防災活動を推進しています。



地域活性化推進プロジェクト
～彦根の祭りを知って伝えよう～

滋賀県には寺社が多く、また、道端の地蔵、祠も無数に存在します。それらの祭りはかつて共同体の公の行事であったが、政教分離と民主主義が進み、祭りは変容を被っています。時代の趨勢により変化しつつも、その本源の精神を保ちつつ、そして当事者たちの悩みと試行錯誤を糧として、祭りは継続しています。このような祭りの変化の相を正しくとらえると同時に、祭りを成立させる場すなわち共同体の変化を理解します。また、伝統的なまつりの他に、国宝彦根城410年祭・中南部イベントに自治体等と連携し取り組みました。



地域活性化・課題解決プロジェクト

- 稲枝地域の活性化に向けて①～④の順に取り組みました。
- ①自分たちが4年間学ぶ地域のことを知る。地域の現状や課題について関係者から話を聞く。
 - ②現状や課題をまとめた上で、実際に自ら現地を歩き、ヒアリング調査する。
 - ③課題解決に向け自分達に何が出来るかを考え、グループで検討し、アイデアをいくつかの企画案として発表する。
 - ④それをもとに関係者に提案し実現に向けて調整や準備をおこない、地域で実践する。



健康づくりリーダー養成講座

超高齢化社会となった日本では、地域での健康づくりに関して、専門家だけでなく、地域住民が自主的に健康づくりを行えるよう自立（律）が求められています。聖泉大学では地域での健康づくりに活かすことができる知識と実践的なプログラムとして、健康の3要素（運動・栄養・休養）を取り入れた中級編を開講しました。講座運営にあたっては、看護学研究科や人間学部が学生がスタッフとして活躍しています。日頃の学びの実践の場として、参加者の方と積極的に関わっています。

中級編

トータルコーディネーター・人間学部講師 多胡陽介

第1回「心と身体のリラセーション」

日時：平成29年 4月15日（土）10:00～12:00

講師：小山敦代（看護学部教授・学長）

ストレス社会の中にあっても健康寿命を延ばすには、リラセーションはとても大切です。ストレスをため込むことで身体・心理・行動に影響が出てきます。

漸進的筋弛緩方やマインドフルネス瞑想法について体験しました。また、自分自身のストレス対処とセルフケアについて、受講者同士で意見交換をしました。



第2回「やってみよう！聖泉オリジナル体操」

日時：平成29年 5月13日（土）10:00～12:00

講師：安孫子尚子（講師）、多胡陽介（講師）

昨年度から開発を進めていた「いきいき聖泉体操」のサンプルバージョンを披露し、皆で体験しました。

四季をイメージし、生活のなかにある身近なタオル等を用いて無理なく行える、健康づくりリーダーが伝えやすい体操を意識し、開発しました。体操後は、感想や活動方法、体操の名前等についてグループで話し合いました。



第3回「やってみよう！丈夫な足腰をつくる簡単エクササイズ」

日時：平成29年 6月3日（土）10:00～12:00

講師：中原今日子（健康運動指導士）

身体の仕組みや今日から手軽に出来る健康体操、ウォーキングについて学びました。筋力低下は健康寿命にとって大きな影響があります。

滋賀県でもご活躍中の講師から、生活のなかで簡単に出来る口コトレを学び、実際にタオルやマットを使って体験してみました。



第4回「アクティブ・シニアに必要な栄養と食事について」

日時：平成29年 6月24日（土）11:00～13:30

講師：奥井智美（管理栄養士・聖泉大学非常勤講師）

私たちが毎日摂取している栄養素に気を付けながら、バランス良い食事を取る方法について講師から学んだ後、皆で地元の野菜を使った和風きのこカレーとフルーツヨーグルトサラダを作りました。



受講された方の感想（抜粋）

- ・様々な観点から健康を見直すことができとても良かった。
- ・回を重ねるごとに参加者同士の親近感が生まれて、最後の調理と食事はとても良かった。
- ・実技と講義がありちょうどよかった。
- ・男性受講者が増えれば良いと思う。
- ・今後の地域や自分の身体に役立つ講座でした。



終了後には、中級編4回全て出席された受講者に、修了書が授与されました。

初級編

トータルコーディネーター・人間学部講師 多胡陽介

第1回「体力測定と健康相談」～自分の健康状態を詳しく知ろう～

日時：平成29年 9月30日（土）10:00～12:00

講師：間 文彦（看護学部教授）、中島 真由美（看護学部講師）

安全に運動を行うための基礎知識への理解と自己の体力評価を行いました。安全に運動を行うためには、体力チェックや運動前の準備体操が欠かせません。また脈拍などのチェックを行えば、より安全に運動を行うことができます。体力測定では、高齢期に重要な筋力や筋肉量、歩行能力を中心に測定を行いました。



第2回「ノルディック・ウォーキング体験」

日時：平成29年 10月28日（土）10:00～12:00

講師：多胡 陽介（人間学部講師）

ノルディック・ウォーキングは、専用のポールを用いて歩く健康法であり、普通に歩くよりも効果が高く、消費エネルギー量が増えたり、きれいな姿勢で歩けるなど科学的にも効果が立証されています。当日はノルディック・ウォーキングの科学的効果への理解を深め、ポールを用いた体操や基本的な歩き方を習得しました。



第3回「運動と心の健康」

～簡単な音楽体操やレクリエーション活動を通じて～

日時：平成29年 11月25日（土）10:00～12:00

講師：講師：炭谷 将史（人間学部准教授）

運動と心の健康に関する講義を前半におこない、運動することと心の健康はつながっており、適度に身体を動かすと心の調子が良くなります。また、仲間と会話を楽しんだり、美味しいものを食べたり、楽しいことを優先にしつつ、同時に運動を行うという考え方も大切であるとのことでした。後半は簡単に楽しく運動できる体操やレクリエーションを行いました。



受講者の感想

- ・わかりやすく教えて頂き、適度な運動を交えながら心身共に大変良かった。リーダーとしての講習は大事と考えますが、個人の健康維持の為に勉強する目的で今後も参加したいです。
- ・現在している健康体操やサロンで応用したい事やお話がたくさんあり良かったです。ありがとうございました。
- ・健康づくりに取り組むにあたり、専門の先生方から理論を学び、理論を踏まえて運動させて頂くことで、普段の生活上の活動において意識が少し変わりました。ありがとうございました。
- ・近くで参加できやすく、大変有意義に過ごせました。これから、ゆっくり思い出しながら資料を復習したいです。とても良かったです。



初級編修了の様子

平成29年度 公開講座

「パートナーと一緒に過ごすマタニティライフと出産・育児」

日時：平成29年5月13日（土）13:30～15:00
講師：木村知子（看護学部教授・学科長）

この講座では、①講義→②沐浴体験→③グループで意見交換→④分娩室見学の順に進めました。また、本学の看護学部4回生の学生が講座の運営スタッフとして沐浴やグループワーク等に参加しました。沐浴体験では、ご夫婦が助け合いながら赤ちゃんをお風呂へ入れました。

その後、男性・女性がグループになり、自己紹介・これからの夢や希望・不安等についての話をしました。最後に実際の分娩室や分娩台を見学し、出産や育児へのイメージが少しずつ膨らんできたのではないかと思います。参加された皆様方に、健康な赤ちゃんが誕生することを願っております。

主な感想

- ・赤ちゃんのお風呂やおむつ替えなど、実際の道具を使っていたのが分かりやすかった。
- ・分娩室でどうやって助ましたらいいのか分かったのが良かった。
- ・夫婦で参加し体験することでイメージがつかみやすくて良かったです。
- ・いろいろな話を聞かなくて楽しかったです。



「子どもの健やかな成長のために」

日時：平成29年6月3日（土）13:30～15:00
講師：流郷千幸（看護学部教授・学部長）

最初に筒井学長より、今年度は公開講座として初めて「子育てシリーズ」を実施することになり、地域に開かれ他大学として、様々な公開講座や交流を通じて、地域貢献に努めていきたいと挨拶をいたしました。

この講座では子どもの発達について、新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期等、発達段階に応じた特徴や課題について、また様々な行動の意味についても分かりやすく説明されました。また、愛着の形成や家族の機能と役割について、動画も取り入れた講座で理解しやすい講座でした。参加者は20代から70代と幅広く、様々な立場で子どもと接しておられる方々が共に学ぶ場になったことを嬉しく思います。

主な感想

- ・発達にそって親の役割を分かりやすく説明して頂いて良かったです。
- ・孫がおり非常に参考になった
- ・若い家族と同居のため、子どもの成長を見守るために勉強にきました。
- ・不安に思っていたことが子どもの成長のためには必要なことだと分かって安心しました。
- ・子どもの行動について理解できました。



「発達障がい児との関わり」 ～実践していることのいくつかについて～

日時：平成29年8月26日（土）13:30～15:00
講師：押岡大覚（人間学部准教授 臨床心理士）

この講座では、講師より自己紹介、発達障がいに関心を寄せた経緯などの話の後、参加申し込みの際に頂いた参加者からのご質問に対して、質問者が特定されない形で、一つひとつ丁寧に答えしながら進めていきました。また、講師が発達障害臨床で取り入れている内容について、実技を取り入れながら行いました。

参加者全員で、脳の疲れを取る体操を行ったり、発達障がいの訓練について、パランスボール等も紹介されました。

主な感想

- ・具体的な内容を話してもらえたので、分かりやすく、良かったです。
- ・質問について時間をかけてしっかり答えて頂き嬉しかったです。早速実践してみようと思いました。
- ・「発達障がい者は発達する」この言葉で気が楽になりました。
- ・内容が密で勉強になりました。あっという間に時間が経ちました。
- ・障がい者の方々に接しているので、役立ちます。



「老いてこそ輝く～自分らしく生きる～」

日時：平成29年9月30日（土）13:30～15:00
講師：市橋英昭 氏（稲枝地区ボランティア連絡協議会）
村西美恵子 氏（愛荘町主婦）
高橋孝治 氏（彦根市地域包括支援センターゆうじん）
太田節子（看護学部教授）、磯邊厚子（看護学部准教授）

この講座では、まず地域で活躍中の3名の講師の方が、それぞれの日頃の実践活動について話題提供をして頂きました。その後、講座受講者の方々も一緒に、高齢者の今・未来について、ディスカッションをいたしました。今回は、近江楽座（学生の地域貢献活動）・高齢者と看護学生の地域内交流プロジェクトのメンバーが運営を行い、最後にステージで「手のひらに太陽を」を歌い踊りました。元気あふれる講座になりました。

主な感想

- ・自分の町内でも見習うべきことがありました。
- ・私も将来輝ける高齢者でありたいと思いました。何か活動することが、元気の源になると思いました。
- ・「人は死ぬまで成長する」を大切にします。
- ・高齢者の社会参加や取組みなどの現状がとてもよく分かりました。



学生の地域交流活動

彦根市立病院のふれあいまつりに 心理検査研究会と茶道部が参加しました

活動日：平成29年5月27日

彦根市との連携協定により、市立病院のふれあいまつりに、本学の心理検査研究会と茶道部の学生・教員が参加しました。

「心理検査研究会」が開催する心理検査は、予約券があつという間に無く

なり、大人気でした。学生は初めての会場で少し緊張しながらも丁寧に対応していました。

茶道部の学生は、浴衣を着ておもてなしをしました。多くの市民の方が参加してくださり、交流とお茶とオリジナルのお菓子を楽しんで頂きました。茶道部には中国の留学生も所属しています。



本庄町老人クラブへの レクリエーション支援を行いました

活動日：平成29年6月1日

本庄町老人クラブからの依頼を受け、簡単な体操やレクリエーションなどの支援を行いました。

具体的な内容としては、椅子に座りながら行えるストレッチ、頭で考えながら手や腕などを動かす体操、ペアで行える簡単なレクリエーション（指キャッチなど）、グループの絆が深まるレクリエーション（スキヤキじゃんけんなど）を行いました。楽しく主体的に交流を深められる参加者の様子がみられました。



男子ホッケー部の学生が、豊郷町の「とっとまつり」に参加しました

活動日：平成29年8月5日

今年度は、男子ホッケー部の学生25名がハッピー姿で参加しました。豊郷町の企業・団体・自治会等の皆さんと一緒に楽しく江州音頭を踊りました。大学で事前練習した成果が出せたようです。



のびっこクラブとの交流

活動日：平成29年8月10日、16日、17日

NPO法人のびっこクラブと本学は一昨年より様々な形で交流を行っています。昨年に引き続き、稲枝北小学校・稲枝東小学校放課後児童クラブ交流会の遊びを企画しました。今年度は、看護学部が企画・運営し、稲枝公民館の2階で開催しました。100人以上の小学生さんを相手に交流会を行うことは初めてで、大変なこともありましたが、皆さん楽しんでくれた様子で良かったです。

交流会の他、稲枝東小学校放課後児童クラブでは、2日連続で遊びの運営を行いました。初日の8月16日は、室内で工作をおこない、2日目の8月17日は、体育館で体操やドッジボールを行いました。多くの元気な小学生に学生達も戸惑うことや準備不足を感じることもありましたが、この経験を今後の学びに活かしていってほしいと思います。

次年度以降も交流を続けていきたいと考えています。



西肥田町子供会地蔵盆に参加

活動日：平成29年8月19日

稲枝自治会館で「地蔵盆」が行われ、本学の高齢者交流プロジェクトのメンバーも参加しました。お坊さんのお話を拝聴後、子どもたちやお母さんたちと一緒に昼食を頂きました。稲枝地区の高齢者サロンで出会った方から「ここに座りー」と言われ、ほっとしました。昼食しながら、隣の子どもに「おいしいね、夏休みはなにをしているの?」と聞くと、習い事をしていると応えてくれました。

昼食後、本学2回生の学生が人形劇や紙芝居を行い、とくに小さい子どもに喜ばれました。

じゃんけん大会では、負けて悔しそうな子や、勝っても景品を遠慮がちに受け取る子がいました。最後は、全員で「手のひらを太陽に」を歌いました。自治会の市橋さんが大きな声を出すと、皆も一斉に大きな声を出し、皆が一体になった感じで、とても気持ちが良かったです。今回、周りは知らない子どもばかりでしたが、「こちらから話しかけると緊張がほぐれていく」ことを感じました。

相手に楽しんでもらうためには、自分たちも楽しむ気持ちが大切だと思いました。



ご当地キャラ博 活動日：平成29年10月21日

今年度は10年目となったご当地キャラ博ですが、台風の接近で21日の1日のみの開催となりました。当日は7時に集合し、設営から来場者の案内、キャラ控室担当などに分かれて、雨天の中でも元気に笑顔で対応をしていました。終了後の片付けも手際よく、主催者の方からは、ぜひ来年度も一緒にやってほしいというお声を頂きました。



大学附属施設の機能・概要

図書館

図書館は、学術に関する研究・学習の目的をもって、本学図書館のサービスを必要とされる方であれば、どなたでも利用できます。公共図書館とは少し異なり、身近な内容の図書というよりも、聖泉大学の学科（人間心理学科・看護学科）に関する専門的な図書・雑誌、その他資料を有するのが特徴で、各専門領域に関する図書、雑誌の類は大体揃っていて、開架式で、手に取って眺め吟味し、閲覧室で読み調べたりできます。また、データベース（医中誌Web、CiNii、CINAHL等）と電子ジャーナルや雑誌（冊子体）をつなげるシステムのSFX(リンクリゾルバー)により、全国の大学図書館で所属している図書・雑誌の最新情報が検索でき、本学図書館を通して図書を借り出したりコピーを入手したりできます。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

連絡先

E-mail: library@seisen.ac.jp



国際交流センター

国際交流センターは、平成25年度に設立された新しい組織です。主な事業は、本学学生の異文化交流事業および海外の大学との連携事業です。異文化交流事業では、ミシガン州立大学連合センターが主催する英語づけプログラムへの参加補助を行い、学生が留学等の国際進出の第一歩を踏み出す活動のサポートをしています。また、海外の大学との提携事業では、中国との連携を中心に進めており、現在12の大学との連携を進めています。現在は主に中国人留学生の受け入れを行っており、学内の国際化につながっています。

滋賀県内に居住する外国籍の方々との交流などのご要望があれば下記にご連絡ください。

連絡先

TEL: 0749-43-7512 (学生課)
E-mail: kokusai@seisen.ac.jp



カウンセリングセンター

現在の社会は情報化の進展と物質的豊かさにより、人間にもたらされる精神的なひずみからくる「心の問題」が指摘されるようになってきました。特に、社会的に孤立したり閉鎖的な心の状況にある人に対して、心の支援をする必要が強く求められています。聖泉大学では、平成15年に人間心理学科を設置して以来、地域に開かれた相談室としてカウンセリングセンターを設け、ご相談を受け付けております。ご相談は本学の臨床心理士が担当し、秘密は厳守します。どうぞ気軽にお越しください。

連絡先

TEL: 0749-43-7623
FAX: 0749-47-8047



学部附属施設の機能・概要

看護学部附属看護キャリアアップセンター

看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的に2011（平成23）年、看護学部開設と同時に設置され8年目を迎えました。当センターでは、次の事業を行っています。

- ① 看護の質の向上を目指し看護研究をテーマとした講座の開設
- ② 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- ③ 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- ④ 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- ⑤ 当大学卒業生の研究、研修のサポート
- ⑥ その他、センターの目的達成のために必要な事業

特に力を入れている事業は、看護の質の向上を目指し、看護研究をテーマとした【キャリアアップ講座】であります。研究の進め方、文献検索、研究方法、データ分析、まとめ方と発表、研究相談までを<ホップ><ステップ><アップ><サポート>として、4回（4日間）開講し、全て受講した方に修了証を交付しています。2011(平成23)～2017(平成29)年度の7年間で修了者は161名に達しました。加えて特別講座<ジャンプ>として、統計解析を中心としたレベルアップ講座の開

設や研修後も引き続き研究の質問や相談ができる道を開いています。滋賀県内の多くの看護職等の方々がキャリアアップ講座を受講していただきましたことに感謝申しあげ、当センターが教育・研究の相互交流の場としての役割を担い、充実・発展してきていることを大変嬉しく思っております。次は、修了生の方達が臨床看護の場においてどのような形で活かされているか、その成果とニーズを把握し、当センター事業に反映していくことを課題としています。

また、看護学部第4期生までが卒業しましたので、卒業生を対象に卒後1年目、卒後2・3年目研修会を開催いたしました。当センターがより一層、目的に向けた役割を果たしてい

ますよう、皆様のご支援協力をお願い申し上げます。詳細はホームページをご覧ください。



連絡先

E-mail: kango-career@seisen.ac.jp

人間学部附属スポーツ・身体運動支援センター

身体運動支援センターは、平成20年に前身スポーツ文化研究所として設立され（平成26年4月より改名）、以来2つのねらいを達するべく活動を展開してきました。

- ① スポーツや健康づくりに関する聖泉大学の資源を活かした地域住民のQOLの向上
- ② 聖泉大学が特別に支援する3つの部活動（男女ホッケー部、女子サッカー部）の活動充実

具体的な活動としては、近隣の幼稚園児・小学生を対象とした運動・スポーツ活動のサポート、高齢者自主グループを対象とした介護予防運動のサポート、県内機関との共同でのイベント実施などです。また、健康づくりリーダー養成講座への様々な協力を行っています。

特別支援クラブは、設立より9年が経過し、女子ホッケー部では平成25年には全日本学生選手権大会（インカレ）で全国3位、平成27年シーズンより日本リーグに参戦、男子ホッケー部は平成27年シーズンに全日本大学王座決定戦でベスト8に進出するなどの活躍を見せています。女子サッカー部

は、卒業生がなでしこリーグで活躍したり、関西女子サッカーの1部リーグに昇格するなど、チームや個々の選手の活躍が目覚ましいです。

健康づくりや各種スポーツ活動の指導等が必要な場合は、下記に連絡してご相談ください。

連絡先

TEL: 0749-43-3600 (大学代表)
E-mail: sports@seisen.ac.jp



教員紹介 (研究者一覧)

人間学部

人間学部は、『臨床発達心理領域』・『健康運動心理領域』・『ビジネス心理領域』の順にご紹介いたします。



高橋 啓子 TAKAHASHI Keiko

学部 職位 領域 人間学部 教授 (副学長・学部長) 臨床・発達心理

専門分野 心理カウンセリング、臨床心理学

主な研究テーマ 地域支援としてのカウンセリング活用

**地域社会のために
できること**

人間学部は心理学を専門としています。先端をいくストレス研究や心の奥深い領域から生じる現象まで幅広い人間研究の場でもあります。例えばカウンセリングセンターは地域に開かれ、多くの人が相談に通ってこられます。学んだことが社会で生かされるという喜びが学生を育てていくと思います。



李 艶 LI Yan

学部 職位 領域 人間学部 教授 臨床・発達心理

専門分野 社会心理学、異文化間心理学 産業・組織心理学、社会心理調査

主な研究テーマ ①一つの心に多様な文化存在の要因 ②集団行動における比較文化心理学 ③仕事の動機づけ、達成動機の比較文化研究 ④メタ認知機能 ⑤自律的キャリア形成

**地域社会のために
できること**

若い学生諸君を地域貢献できるような人材を育成するため、日々努力します。そのため、地域社会の理解につながる知識とスキルを学生に身に着けさせ、さらに実践的に地域社会活動にかかわるよう強い意志を持たせます。



新美 秀和 NIIMI Hidekazu

学部 職位 領域 人間学部 准教授 (学科長) 臨床・発達心理

専門分野 カウンセリング、心理検査

主な研究テーマ 主たる研究テーマは心理臨床場面で描かれる絵の解釈法です。また近年、地域における心理的支援活動にもゼミ生とともに取り組み始めています。

**地域社会のために
できること**

臨床心理士としてこれまで個人面談を中心に活動してきましたが、悩める人や困っている人にとってほんやりできるような、居心地のいい場所作りにも関心があります。学生とともに活動してまいりたいと思います。



谷口 麻起子 TANIGUCHI Makiko

学部 職位 領域 人間学部 准教授 臨床・発達心理

専門分野 臨床心理学、心理臨床学

主な研究テーマ

摂食障害の心理と治療について。心理検査。保護者・教員支援。

**地域社会のために
できること**

摂食障害についての講演会。乳幼児～青年期の発達や心理、問題行動や関わり方についての研修会や講演会。心理的問題に関するカウンセリングやコンサルテーション。心理に関する調査研究。



押岡 大覚 OSHIOKA Daisuke

学部 職位 領域 人間学部 准教授 臨床・発達心理

専門分野 心理療法論 力動的発達論 発達障害論

主な研究テーマ

心理臨床家に対する教育・訓練としてのフォーカシング指向グループについて 心理治療場面での " 治療者－患者関係 " における " 治る力 " と " 治す力 " の力動性について 他

**地域社会のために
できること**

本学カウンセリングセンターにおいて、相談員 (臨床心理士) として広く地域の皆様にカウンセリングサービスを提供しています



布井 雅人 NUNOI Masato

学部 職位 領域 人間学部 講師 臨床・発達心理

専門分野 認知心理学

主な研究テーマ 選好形成に及ぼす認知的・社会的要因について

**地域社会のために
できること**

人の行動の多くは「好き」という感情によってもたらされるものです。つまり、様々な行動の背後にある「好き」という感情の理由を分析することは、様々な行動の見直し・改善へとつながります。そのような分析のお手伝いができると考えています。



炭谷 将史 SUMIYA Masashi

学部 職位 領域 人間学部 教授 健康運動心理

専門分野 運動心理学、スポーツ心理学

主な研究テーマ

- 1) 子どもの運動遊びと心身の発達
- 2) 子どもの運動遊びを促進する環境づくり
- 3) 子どもの運動遊びへの大人の関わり方

**地域社会のために
できること**

保護者対象の子育て支援や幼児・児童を対象とした運動遊び教室・クラブを主宰する社団法人を主宰しています。地域の子どもたちと一緒に遊んだり、運動能力を高めるための各種運動指導、保育園・幼稚園や保護者の方々を対象とした発達に関する講演等、対応させていただきます。



多胡 陽介 TAGO Yosuke

学部 職位 領域 人間学部 准教授 健康運動心理

専門分野 スポーツバイオメカニクス レクリエーション学、健康運動科学

主な研究テーマ

健康運動や競技スポーツの動作分析、健康運動の実践方法

**地域社会のために
できること**

現在、地域の中高齢者の方を対象に運動やスポーツによる健康づくり活動を行っています。具体的に出来ることは、レクリエーションや健康運動の実践講座、中高齢者を対象にした体力測定等です。



山堀 貴彦 YAMAHORI Takahiko

学部 職位 領域 人間学部 助教 健康運動心理

専門分野 運動方法、コーチング

主な研究テーマ

- ・フィールドホッケーの普及
- ・フィールドホッケーの動作・戦術分析

**地域社会のために
できること**

フィールドホッケーを通じて、地域の子供達にスポーツの価値を知ってもらうことや仲間とのつながり (チームワークの大切さ) を体感してもらえるよう、意欲的に取り組んでいます。



山越 章平 YAMAKOSHI Syohei

学部 職位 領域 人間学部 助教 健康運動心理

専門分野 スポーツ心理学

主な研究テーマ

アスリートにおけるパーソナリティと精神的健康

**地域社会のために
できること**

スポーツや教育、ビジネスなど様々な領域で使える“こころ”の鍛え方を紹介します。また、チームやグループをまとめることを目的としたアクティビティも実際に体験することができます。



方 蘇春 FANG Suchun

学部 職位 領域 人間学部 教授 ビジネス心理

専門分野 経営学、経営工学、中国経済

主な研究テーマ

1. 滋賀県のインバウンド資源活用に関する研究
2. 日中長寿企業に関する比較研究
3. 日中自動車産業に関する比較研究
4. 日中企業交流に関する系統的研究 等

**地域社会のために
できること**

日本に訪れる観光客は年々増加しており、そのうち半数以上は中国大陸・台湾・香港出身者に占められている。一方、滋賀県は豊富なインバウンド資源を有しながら、十分に発揮できていないと言われていた。そこで、本研究室は、とりわけ中国系訪日観光客の滋賀県に対する認知度調査などを通じて、滋賀県の魅力をより一層訪日観光客に伝える対策を提案することで地域貢献を図ろうとしている。



唐 楽寧 TANG Lening

学部 職位 領域 人間学部 教授 ビジネス心理

専門分野 管理会計、経営戦略、語学教育

主な研究テーマ

人的資源に関わる会計問題 企業の人的資源に関する支出の取扱い、人的資源価値の測定及び企業価値との関わりを検討し、信頼性と有効性の高い人的資源情報の測定・伝達システムのあり方を研究する。

**地域社会のために
できること**

中小企業の経営活動、企業の中国進出事業などへの支援、地方自治体の国際交流事業、国際理解教育などへの支援



脇本 忍 WAKIMOTO Shinobu

学部 職位 領域 人間学部 准教授 ビジネス心理

専門分野 社会心理学

主な研究テーマ

- ①笑いとコミュニケーション
- ②沖縄離島の文化に関する社会心理学的研究
- ③観光マーケティングと地域活性化

**地域社会のために
できること**

まちづくりは地域特性を最大活用することが重要です。しかし、同じ顔触れで続けると、近視眼的になり硬直します。まちづくりには「若者・バカ者・よそ者」のアイディアと実行力が必要だといわれています。理論と実際をご紹介します。



富川 拓 TOMIKAWA Taku

学部 職位 領域 人間学部 准教授 ビジネス心理

専門分野 社会学

主な研究テーマ

サービス・ラーニング、PBL、キャリア教育、男女共同参画

**地域社会のために
できること**

- ・地域課題の解決を目指す実践研究「男女共同参画」「主権者教育」など
- ・研修会等の講師「男女共同参画」「ジェンダー」「キャリア教育」「PBL」「サービス・ラーニング」など
- ・審議会等の委員「男女共同参画」「総合計画」など



小澤 克彦 OZAWA Katsuhiko

学部 職位 領域 人間学部 講師 ビジネス心理

専門分野 情報学

主な研究テーマ

高等学校教科「情報」に関する研究。生活困窮家庭の学習支援に関する研究。

**地域社会のために
できること**

地域社会のためにできること：パソコンが苦手な人のWORD、EXCELのパソコン教室。生活困窮家庭の学習支援活動 (現在、彦根市中部地区公民館で実施中)。楽しく安全なスキー指導。



山口 隆介 YAMAGUCHI Ryusuke

学部 職位 領域	人間学部 講師 ビジネス心理
専門分野	中世哲学

主な研究テーマ 西洋中世のキリスト教哲学
特にトマス・アキナスの思想

地域社会のために
できること 宗教哲学を研究しておりますので、地域の祭り
や寺社など宗教文化、最近では道端の地蔵や祠
に興味を持っています。あちこちに存在してい
ながらその価値を忘れられているものに光を当
てることに協力したいと思います。



末松 史彦 SUEMATSU Fumihiko

学部 職位 領域	人間学部 教授 一般教養
専門分野	日本史（近世史）

主な研究テーマ 彦根藩政史の研究

地域社会のために
できること 彦根城の世界遺産登録に向け、彦根藩の歴史を
紹介するなど、市が進める地域づくりや景観づ
くりに参加し、その伝統的地域を保全していく
ために町内組織をはじめとする、地域防災へ
の積極的な参画・協力。



筈井 美邦 HAZUI Yoshikuni

学部 職位 領域	人間学部 教授 一般教養
専門分野	教育学

主な研究テーマ 教育効果をもたらす部活動の取り組みとは
～26年間にわたる指導体験を通して～

地域社会のために
できること バレーボールの指導を通しての地域貢献



森 雄二郎 MORI Yujiro

学部 職位 領域	人間学部 講師 一般教養
専門分野	人間文化学 教育社会学

主な研究テーマ 「多様な背景を持つ人々が協働・協創する場・
社会づくり（コミュニティデザイン）に関する
研究」「多文化共生をテーマとする多文化教育
の手法や教材開発に関する研究」

地域社会のために
できること 多彩なワークショップを用いて、身近な人間関
係づくりから職場や地域活動のチームビルディ
ングまで、主体的に参加者が学びあう場づくり
を支援します。「人間関係トレーニング」「ファ
シリテーション入門」「まちづくりワークショッ
プ」など

看護学部

看護学部は専門によって、9つの領域に分かれています。『基
礎看護領域』・『成人看護領域』・『老年看護領域』・『母性看護
領域』・『精神看護領域』・『小児看護領域』・『地域看護領域』・
『在宅看護領域』・『養護領域』の順にご紹介いたします。

（ ）内は職位 []内は大学院の領域



小山 敦代 KOYAMA Atsuyo

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕 教授（学長） 基礎看護学〔看護教育学〕
専門分野	基礎看護学、看護教育学

主な研究テーマ 看護教育に関する研究
看護における補完代替医療 / 療法
(Complementary and Alternative
Medicine/Therapy) に関する研究

地域社会のために
できること

“元気が一番！”と思い、長い間、看護・学生
教育に携わってきました。特に様々なストレス
にうまく対処し、心身ともに良い状態を維持し
ていけるように、“こころとからだを調えるリ
ラクセーション法”をセルフケアや健康寿命
アップに繋がれたらと考えています。



太田 節子 OTA Setsuko

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕 教授 老年看護学〔看護ケア開発〕
専門分野	老年看護学、基礎看護学

主な研究テーマ 1. 高齢者の生活機能を高める援助に関する研究
2. 高齢者のターミナルケア
3. 老年看護教育の方法論に関する研究

地域社会のために
できること

聖泉大学は稲枝・彦根地区の皆さんとの交流が
望まれます。現在は公開講座、大学祭等で保健・
福祉・心理学等の交流があります。この繋がり
が発展するよう、その成果を意識づけ、継続す
ることが大切と考えます。



鈴木 要子 SUZUKI Yoko

学部 職位 領域	看護学部 特任准教授 基礎看護学
専門分野	基礎看護学

主な研究テーマ がん医療場面におけるコミュニケーション、
死生観の発達の变化

地域社会のために
できること

がんの医療場面での、患者さん・ご家族・医師
の間のコミュニケーションについて研究した経
験を活かし、医療を受ける際のよりよいコミュ
ニケーションを地域の皆さんと共に考えたいと
思っています。



井之口 文月 INOUCHI Fuduki

学部 職位 領域	看護学部 講師 基礎看護領域
専門分野	基礎看護学

主な研究テーマ 閉経前後の身体の変化について
看護における解剖生理学の教育について

地域社会のために
できること 閉経前後の身体の変化について研究してきたこ
とを、中高年の健康維持につなげたいと考えて
おります。



今井 恵 IMAI Megumi

学部 職位 領域	看護学部 助教 基礎看護学
専門分野	基礎看護学

主な研究テーマ 看護技術教育における「ボディメカニクス活
用」の効果的な教授法の研究

地域社会のために
できること 在宅療養における介護者の腰痛に関するご相
談、腰痛予防や軽減についての取り組みへの協
力や支援



川橋 けい子 KAWAHASHI Keiko

学部 職位 領域	看護学部 助手 基礎看護学
専門分野	基礎看護学

主な研究テーマ

地域社会のために
できること

地域福祉・地域環境イベントの参加・活動を通
して、地域の方との交流をもとに「まち」がよ
り元気になるよう努めていきます。



高島 留美 TAKASHIMA Rumi

学部 職位 領域	看護学部 特任助手 基礎看護学
専門分野	基礎看護学

主な研究テーマ 看護学生の臨地実習指導に関する研究

地域社会のために
できること 看護学生の講義や臨地実習などを通して、地域
のみなさまが求める看護とは何かを考えていき
ます。



坂田 直美 SAKATA Naomi

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕 教授（副学長） 成人看護学〔生活支援看護学〕
専門分野	成人看護学 老年看護学

主な研究テーマ 慢性病患者のセルフケア支援看護、認知症高
齢者と家族の生活支援看護、病院・介護施設・
在宅間の連携協働支援看護

地域社会のために
できること 現場の看護職の皆様と一緒に、一般病棟・介護
保険施設・在宅における認知症ケアの向上に取り
組めたら嬉しいです。是非お気軽にお声をか
けて下さい。継続看護や連携協働のシステムづ
くりに関心のある方もどうぞ。



中川 ひろみ NAKAGAWA Hiromi

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕 准教授 成人看護学〔生活支援看護学〕
専門分野	周術期看護 急性期看護

主な研究テーマ 周術期看護、手術部位感染、ストーマケア、
体位変換技術習得に関する研究

地域社会のために
できること 創傷ケア、スキンケア、ストーマケア、失禁ケア、
体位変換技術に関する講演、研修



中島 真由美 NAKAJIMA Mayumi

学部 職位 領域	看護学部 講師 成人看護学
専門分野	成人看護学

主な研究テーマ 痛みを持つ方への看護に関する研究

地域社会のために
できること 慢性疼痛を持つ方は多く、そのケアに関する内
容であれば、お役に立てるかと思います。



國松 秀美 KUNIMATSU Hidemi

学部 職位 領域	看護学部 講師 成人看護学
専門分野	急性期看護・災害看護

主な研究テーマ 災害が発生した直後は、自助および共助でその
場にいる人たちが協力し合っているのちと健康を
守る活動が重要です。避難所看護における看護
職の協働について研究しております。

地域社会のために
できること 地域における減災の為の活動や心肺蘇生法・
AEDを一般市民普及する活動をしています。



山根 加奈子 YAMANE Kanako

学部 職位 領域	看護学部 助教 成人看護学
専門分野	成人看護学

主な研究テーマ

慢性心不全患者の看取りを体験した看護師の感情に関する研究

地域社会のために
できること

慢性疾患を持ちながら生活する方のサポートやその家族への支援などを一緒に考えたり、お手伝いをしていきたいと思っています。



馬場 好恵 BABA Yoshie

学部 職位 領域	看護学部 助手 成人看護学
専門分野	成人看護学

主な研究テーマ

臨地実習における指導者のコンピテンシーに関する研究

地域社会のために
できること

臨床での経験を活かして、現場の看護職の皆様との橋渡しができるよう努めてまいります。



安田 千寿 YASUDA Chizu

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕 准教授 老年看護学〔生活支援看護学〕
専門分野	老年看護学

主な研究テーマ

- ・認知症高齢者の不安軽減に関する研究
- ・高齢者の退院計画、退院指導に関する研究

地域社会のために
できること

高齢者ご本人や高齢者をサポートしている方、これから高齢者になられる方などと、生活の中の困りごとが加齢による身体の変化とどう関係しているのかを話し合い、生活の工夫や心の整理をしていけたらと思っています。



森本 喜代美 MORIMOTO Kiyomi

学部 職位 領域	看護学部 講師 老年看護学
専門分野	老年看護学

主な研究テーマ

- ・在宅高齢者ケアに関する研究
- ・認知症サポーター養成に関する研究
- ・在宅ターミナル期における介護支援専門員の役割、困難に関する研究

地域社会のために
できること

地域包括ケアが推進されるなか、高齢者が望む生活が安心して送れるよう、高齢者と家族を中心に支える人々を支援していきたいと思っています。



森野 美由紀 MORINO Miyuki

学部 職位 領域	看護学部 助教 老年看護学
専門分野	老年看護学

主な研究テーマ

高齢者への身体拘束に関する研究



森本 恵り子 MORIMOTO Eriko

学部 職位 領域	看護学部 助手 老年看護学
専門分野	老年看護学

主な研究テーマ

- ・高齢者の生活不活発病に関すること
- ・高齢者の退院支援に関すること

地域社会のために
できること

高齢者が地域でその人らしく暮らせるよう一緒に考えていきます。



木村 知子 KIMURA Tomoko

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕 教授（学部長） 母性看護学〔看護管理学〕
専門分野	母性看護学 看護管理学

主な研究テーマ

- ・周産期の看護ケアに関すること
- ・民間中小病院の看護管理に関すること
- ・看護職員の人的資源活用に関すること

地域社会のために
できること

助産師であることを活かして、妊娠中から出産後までをサポートできればと思います。



戸田 美幸 TODA Miyuki

学部 職位 領域	看護学部 助手 母性看護学
専門分野	母性看護学、助産学

主な研究テーマ

母乳育児における自己効力感を高める助産師の関わりに関すること

地域社会のために
できること

青年海外協力隊に参加経験があり、地域にお住まいの在日外国人の妊産褥婦さんへの支援の在り方について、何らかの形で関わっていききたいと考えています。



漆野 裕子 URUSHINO Yuko

学部 職位 領域	看護学部 助手 母性看護学
専門分野	母性看護学、助産学

主な研究テーマ

臨地実習指導者が経験した倫理的葛藤に関する研究

地域社会のために
できること

学生と共に母性看護学を学ぶことを通して、地域の妊産褥婦さんや子育て中のご家族の支援について考えています。



中村 美由紀 NAKAMURA Miyuki

学部 職位 領域	看護学部 助手 母性看護学
専門分野	母性看護学、助産学

主な研究テーマ

周産期における看護ケアに関すること

地域社会のために
できること

学生と母性看護学を学ぶ中で、地域の妊産褥婦さんや育児中のお母さんが、安心して出産や子育てができる環境づくりをしていきたいと考えています。



間 文彦 HAZAMA Fumihiko

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕教授 精神看護学〔地域・精神保健看護学〕
専門分野	急性期精神看護

主な研究テーマ

違法薬物乱用青少年に対する看護の役割に関する研究

地域社会のために
できること

違法薬物乱用防止・アルコール依存症・ギャンブル依存症についての講演会、研修会。依存症に関する治療・地域での活動についてのアドバイスや家族・重要他者に指導・助言。



西垣 里志 NISHIGAKI Satoshi

学部 職位 領域	看護学部 准教授 精神看護学〔地域・精神保健看護学〕
専門分野	精神看護学

主な研究テーマ

精神障がい者の家族支援と、精神科訪問看護師のストレスやエンパワメントについて研究しています。

地域社会のために
できること

心の病を抱えている人とともに生活している家族に対しての、ストレス軽減方法やアサーティブなコミュニケーションについての話や相談支援



栗原 はるか KURIHARA Haruka

学部 職位 領域	看護学部 助教 精神看護学
専門分野	精神看護学

主な研究テーマ

- ・職場での集団心理
- ・精神科長期入院患者への看護

地域社会のために
できること

精神障害をもつ方やご家族が地域でその人らしく暮らしていけるような支援と一緒に考えていきます。



流郷 千幸 RYUGO Chiyuki

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕 教授（研究科長） 小児看護学〔発達支援看護学〕
専門分野	小児看護学

主な研究テーマ

医療措置を受ける子どもと親のストレス緩和

地域社会のために
できること

現在は、医療を受ける子どもの権利やストレス緩和を中心に、小児病棟に勤務する看護師、保育士の方々とお子様への支援のあり方に関する検討会を行っています。今後は、地域住民の皆様を対象とした「子どもの発達」「子どもの健康」に関する相談や講演なども行っていきたいと思っています。



平田 美紀 HIRATA Miki

学部 職位 領域	看護学部〔看護学研究科〕准教授 小児看護学〔発達支援看護学〕
専門分野	小児看護学

主な研究テーマ

医療処置を受ける乳幼児と母親への支援モデルに関する研究

地域社会のために
できること

乳幼児の成長・発達の特徴から育児に関する相談、医療処置を受ける子どもと親の気持ちとその支援についてお話しすることができます。



鈴木 美佐 SUZUKI Misa

学部 職位 領域	看護学部 講師 小児看護学
専門分野	小児看護学

主な研究テーマ

食物アレルギーをもつ小児と家族の支援に関する研究 採血を受ける小児のプレバレーションに関する研究

地域社会のために
できること

食物アレルギーをもつ子どもとその家族への支援について、看護の立場から研究を行っています。日々進歩する食物アレルギーを取り巻く知見と、お母さん方の子育てとを、つなぐお手伝いができれば幸いです。



村井 博子 MURAI Hiroko

学部 職位 領域 看護学部 助手
小児看護学

専門分野 小児看護学

主な研究テーマ

SGA(small-for-gestational age) 性低身長症の母親の育児困難感と育児に対する自己効力感およびソーシャルサポートに関する研究

地域社会のためにできること

昔から「子にまさる宝なし」と言われています。地域が一体となって子どもたちが心身ともに健やかに育っていくようにお手伝いをしていきたいと思っています。



安孫子 尚子 ABIKO Shoko

学部 職位 領域 看護学部 准教授
地域看護学〔地域・精神保健看護学〕

専門分野 地域看護学

主な研究テーマ

地域で行う高齢者の自主グループ活動に関する研究、すこやかな最終段階を迎えるための高齢者の意思決定とソーシャルキャピタルに関する研究

地域社会のためにできること

高齢期に起こるこころと身体の変化、地域で取り組む介護予防、高齢者の自主グループ活動などについての講演、自主グループ活動の継続に関するお手伝いや取り組みへの企画や助言



後藤 則子 GOTO Noriko

学部 職位 領域 看護学部 特任助教
地域看護学

専門分野 地域看護学

主な研究テーマ

高次脳機能障害、認知症等中途障がいに関する研究 等

地域社会のためにできること

今までのネットワークを通じて、地域のニーズに公衆衛生の視点をもって私なりに応えてできればと思います。



大塩 佳名子 OSHIO Kanako

学部 職位 領域 看護学部 助手
地域看護学

専門分野 地域看護学

主な研究テーマ

- ・夫婦関係満足度が乳児の泣きへの感情に与える影響について
- ・子ども虐待予防、育児不安の軽減における保健師の役割について

地域社会のためにできること

育児に悩む保護者の方や、子ども虐待の予防に悩む専門職の方へ、子どもたちが地域で健やかに成長できるように必要なことを考えるお手伝いができればと思います。



磯邊 厚子 ISOBE Atsuko

学部 職位 領域 看護学部〔看護学研究科〕准教授
在宅看護学〔看護ケア開発〕

専門分野 在宅看護学、国際看護学

主な研究テーマ

- ・在宅看護、在宅介護に関する研究
- ・家族看護に関する研究
- ・国際看護における母子保健

地域社会のためにできること

在宅療養における介護者支援、在宅療養者に対する介護の方法や介護保険に関するご相談、高齢者の自立支援に関するご相談



桶河 華代 OKEGAWA Kayo

学部 職位 領域 看護学部 講師
在宅看護学

専門分野 在宅看護学

主な研究テーマ

訪問看護師の経験から在宅看取りに関する研究に取り組んでいます。また、学生が臨地実習で体験する看護技術項目にも関心を持っています。

地域社会のためにできること

訪問看護師と教員の経験を活かして新卒訪問看護師や将来、訪問看護師になりたい教育に取り組んでいます。また、地域の障害者の相談やトラブル解決を図るために第3者委員も務めています。



川嶋 元子 KAWASHIMA Motoko

学部 職位 領域 看護学部 助教
在宅看護学

専門分野 在宅看護学

主な研究テーマ

「外来看護における在宅療養支援のシステム構築のための研究」
地域の方々が病院から退院後安心して地域に戻れるように、退院支援に関する研究を行っています。

地域社会のためにできること

在宅療養を支えるための介護保険のしくみやサービス利用の流れ、地域にある社会資源について紹介します。また、介護に関するご相談に応じます

研究科

大学院看護学研究科では、看護基礎分野と看護実践分野があります。



城ヶ端 初子 JOUGAHANA Hatsuko

学部 職位 領域 看護学研究科 教授
看護教育学

専門分野 看護教育学・看護継続教育

主な研究テーマ

- ・看護における望ましい「看護理論」教育の在り方に関する研究
- ・看護における倫理的問題と解決に関する研究
- ・看護職者の能力向上の支援に関する研究

地域社会のためにできること

- ・臨床における「看護倫理」活用に関する講演会・研修会
- ・看護倫理問題の解決に関するアドバイス
- ・院内教育に関するアドバイス



筒井 裕子 TSUTSUI Sachiko

学部 職位 領域 看護学研究科 教授
生活支援看護学

専門分野 老年看護学

主な研究テーマ

- ・高齢者のADL回復への支援
- ・認知機能の低下への不安について
- ・高齢者の糖尿病への支援

地域社会のためにできること

地域における保健医療を担う学生が一人でも多く地域に就職し、健康で豊かな生活を送って頂ける事を専門職として、活躍できる様努力しています。

別科

別科助産専攻



井上 佳子 INOUE Keiko

学部 職位 領域 別科助産専攻 准教授（別科主任）
助産

専門分野 助産学

主な研究テーマ

- ・妊婦の冷え症がもたらす影響とその予防について
- ・妊娠期からの子どもの虐待予防にむけての助産師の役割について
- ・多胎育児の支援について

地域社会のためにできること

出産や母乳育児、新生児、子育てについて妊婦同志で交流しながら考える参加型マタニティクラス、妊婦の健康づくり（冷えの予防や食事・生活）のためのクラス、孫育てクラスの実施。新生児訪問や母乳育児支援



出石 万希子 DEISHI Makiko

学部 職位 領域 別科助産専攻 講師
助産

専門分野 助産学、母性看護学

主な研究テーマ

医療コミュニケーションに関する研究、助産師の業務内容および業務環境に関する研究、助産師基礎教育に関する研究、産後ケアに関する研究

地域社会のためにできること

学童期・思春期・青年期を対象とした性教育、性感染症予防の啓発、妊娠期の母親教室・両親学級、産後の育児相談・リラクゼーション教室（産後のヨガ、マッサージ）、産後1年以内の母子を対象としたリズム遊び教室



齋藤 弥生 SAITOU Yayoi

学部 職位 領域 別科助産専攻 助教
助産

専門分野 助産学

主な研究テーマ

乳児の事故防止対策について、助産師にできることを探求しています。

地域社会のためにできること

地域社会での助産師の役割を学生とともに学び、助産師学生が施設へ就職した後、切れ目のない妊産褥婦の支援につなげられるような教育をしていきたいと思っています。

聖泉大学には心理学・看護学を中心に様々な専門を持つ教員がおりますので、お気軽にご相談ください。

■お問い合わせ
聖泉大学地域連携交流センター
TEL:0749-43-7510 FAX:0749-43-5201
E-mail:renkei@seisen.ac.jp

地域連携交流センター規程

- (趣旨)

第 1 条 この規程は、聖泉大学地域連携交流センター（以下、「センター」という。）の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。
- (目的)

第 2 条 センターは、地域連携及び産学官連携の総合窓口として、地域住民、N P O、行政、医療機関、企業等との連携を深め、本学が有する人的資源及び教育研究成果を広く地域に還元するとともに、地域文化・社会の発展に寄与することを目的とする。
- (業務)

第 3 条 センターは前条の目的を達成するために次に掲げる業務を行う。

(1) 地域社会の諸活動に対する専門的な支援や地域課題に係る調査研究の調整、受け入れに関すること。

(2) 地域連携及び産学官連携等に係る受託研究、共同研究に関すること。

(3) 地域連携及び産学官連携等に係る人的交流、情報収集及び発信に関すること。

(4) 本学の教員又は組織の地域連携及び地域貢献活動の支援に関すること。

(5) 公開講座、地域連携講座等の地域住民に対する生涯学習の普及・拡大に関すること。

(6) 教育・研究成果の発信・還元に関すること。

(7) 大学・地域コンソーシアム、市民団体、地域団体、行政機関、産業界等と連携したまちづくりに関すること。

(8) その他前条の目的を達成するために必要な事項
- (組織)

第 4 条 センターは、次の各号の者をもって構成する。

(1) センター長(学長が任命した者。以下「センター長」という)

(2) 各学部から教員 2 名

(3) センター事務室職員 1 名

(4) 学生地域連携委員 各学部各学年より 2 名

(5) 前 4 項に定める者の他、センター長が学長の下承を得て、必要と認めた者を加えることができる。

2 センター長は、センターを統括し、これを代表する。

3 センター長の任期は 2 年とする。但し、再任を妨げない。
- (委員会)

第 5 条 センターの運営及び事業に関する具体的な事項を審議するため、センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に定める事項を審議する。

(1) センター業務の企画・運営および評価に関すること。

(2) センターの予算、決算に関すること。

(3) センターの諸規程の変更に關すること。

(4) その他センターの運営に関すること。

3 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) センター長

(2) 各学部から教員 2 名

(3) センター事務室職員

(4) その他、センター長が必要と認めた者

4 前項第 2 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。
- (委員長及び会議)

第 6 条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長は委員会の会務を総理する。

4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

5 委員会は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することはできない。

6 委員会の事務は、地域連携交流センター事務室が担当する。

(学生地域連携委員会)

第 7 条 センター長は、必要に応じ、委員会に学生地域連携委員会を置くことができる。

2 学生地域連携委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 8 条 センターに関する事務は、地域連携交流センター事務室において行う。

(委任)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、センターの運営等に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

(規程の改廃)

第 10 条 この規程の改廃は、教育研究評議会の審議を経て学長が行う。

附則

この規程は、平成 25 年 5 月 1 日から施行する。

附則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

平成 30 年度事業計画 (公開講座・高齢者の学び直し講座)

公開講座

プログラム名	講座名	月	日	曜日	講座時間	講師名
たのしい子育て応援講座（夏季）	パパママ教室	6	2	土	13:30～15:00	木村知子、戸田美幸、漆野裕子、中村美由紀 井上佳子、出石万希子、齋藤弥生
	孫育て教室	7	14	土	13:30～15:00	
	ベビーマッサージ	8	25	土	13:00～14:30	
たのしい子育て応援講座（秋季）	パパママ教室	9	15	土	13:30～15:30	
	孫育て教室	10	27	土	13:30～15:00	
	ベビーマッサージ	11	23	金・祝	13:00～14:30	
たのしい子育て応援講座（冬季）	パパママ教室	12	22	土	13:30～15:00	
	孫育て教室	2	16	土	13:30～15:00	
	ベビーマッサージ	3	21	木・祝	13:00～14:30	
人間学部 シリーズ	親ゼミ：みんなで考えよう子どもの育ち	6	9	土	13:00～14:30	人間学部 教授 炭谷将史
	官学連携による主権者教育の実践と課題	6	30	土	10:30～12:00	人間学部 准教授 富川 拓
	滋賀県とキリスト教哲学	7	20	金	18:15～19:45	人間学部 専任講師 山口隆介
	京都新聞連載コラム「心理学おふさいど」の心理学的効果と事件や社会現象	7	28	土	10:30～12:00	人間学部 准教授 脇本 忍
	そのアンケートのやり方は適切ですか？	8	25	土	13:30～15:00	人間学部 専任講師 布井雅人
	ニューススポーツを通じた健康づくりの可能性	10	13	土	10:30～12:00	人間学部 准教授 多胡陽介
	深読みする喜び～日本の古典を題材に～	12	15	土	13:30～15:00	人間学部 准教授 新美秀和
	胎児のこころ・胎児の世界	12	22	土	10:30～12:00	人間学部 准教授 押岡大覚
シンポジウム	映画によるまちづくり	7	21	土	10:30～12:00	人間学部 准教授・脇本忍、准教授・富川拓、専任講師・山口隆介
	介護する人、される人を超えて～お互い様の共生社会を目指して～	9	22	土	13:30～15:00	西川くるみ（豊郷病院訪問看護ステーションレインボウはたしょう）、上川寿子（友仁会友仁訪問看護ステーションすずらん）岡田郁子（元野洲市介護者家族の会）小宮俊昭（認知と家族の会）

高齢者の学び直し講座（健康づくりリーダー養成講座） トータルコーディネーター 多胡陽介

プログラム名	講座名	月	日	曜日	講座時間	講師名
健康づくりリーダー養成講座（中級編）	①心と身体のリラクセーション	5	12	土	10:00～12:00	学長 看護学部 教授 小山敦代
	②やってみよう丈夫な足腰をつくる簡単エクササイズ	6	2	土	10:00～12:00	健康運動指導士 中原今日子
	③アクティブシニアに必要な栄養と食事について	6	23	土	11:00～13:30	聖泉大学非常勤講師・管理栄養士 奥井智美
	④やってみよう聖泉オリジナル体操	7	14	土	10:00～12:00	看護学部 准教授 安孫子尚子 人間学部 准教授 多胡陽介

受講料 3,000 円 (全 4 回)

健康づくりリーダー養成講座（初級編）	①体力測定と健康相談～自分の健康状態を詳しく知ろう～	9	15	土	10:00～12:00	看護学部 教授 間 文彦
	②ノルディックウォーキング	10	27	土	10:00～12:00	人間学部 准教授 多胡陽介
	③運動と心の健康～簡単な音楽体操やレクリエーション活動を通じて～	11	23	金・祝	10:00～12:00	人間学部 助教 山越章平

受講料 1,500 円 (全 3 回)

健康づくりリーダー養成講座（上級編）	サークル活動を継続するコツ ～健康づくりイベント～	9	15	土	13:30～15:30	看護学部 准教授 安孫子尚子 人間学部 准教授 多胡陽介
	健康づくりイベントの立案 ～イベント企画の工夫～	10	10	水	10:00～12:15	
	準備が重要！ 健康づくりイベント直前準備	10	27	土	13:30～15:00	
	やってみよう！ 参加者と一緒にウォークラリー	11	17	土	10:00～12:00	
	イベント企画はやめられない	11	23	金・祝	13:30～15:00	

受講料 2,000 円 (全 5 回)

30

31



〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720

TEL 0749-43-3600(代表) FAX 0749-43-5201

HP <http://www.seisen.ac.jp/>

地域連携交流センター

TEL:0749-43-7510

E-MAIL : renkei@seisen.ac.jp

人間学部

TEL:0749-43-7510

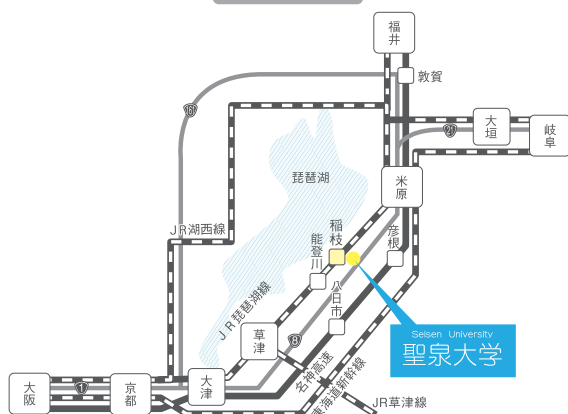
E-MAIL : shinri@seisen.ac.jp

看護学部

TEL:0749-47-8400

E-MAIL : kango@seisen.ac.jp

鉄道路線図



〈主要駅から稲枝駅までの所要時間〉

JR 米原駅から約 15 分 / JR 京都駅から約 50 分 / JR 大阪駅から約 72 分
JR 大垣駅から約 65 分 / JR 敦賀駅から約 85 分 / JR 福井駅から約 114 分

大学周辺マップ



〈駅からのルート〉

JR 稲枝駅から徒歩約 13 分 / JR 稲枝駅からシャトルバス約 2 分